

地元創成看護

ナンバリング:N1-S3-J18

責任者・コーディネーター	地域包括ケア講座 遠藤 太 教授		
担当講座・学科(分野)	共通基盤看護学講座、地域包括ケア講座、成育看護学講座		
対象学年	1	区分/単位数	演習/1単位
期間	通期		

・学修方針(講義概要等)

地元創成看護は、地域社会との協働を通じて、自律的かつ持続的な地元創成に寄与する看護のあり方を探究する科目である。学生は、CBPR(地域参加型研究)を基盤とし、地元住民と対等な立場で健康課題の発見と解決策の検討を行う学修に取り組む。この実践を通じて、地域の特性を踏まえた看護実践力、協働力、ならびにコミュニケーション能力を涵養し、最終的には、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割理解を深めるとともに、地元への愛着と地域医療への貢献意識を高めることを目指す。

・教育成果(アウトカム)

本授業の修了により、学生は地域に暮らす人々の生活実態や健康課題を体験的に理解し、観察・対話・記録を通して課題を整理・可視化する基礎的能力を身につける。
また、住民・行政・支援者と協働する学びを通して、CBPR(地域参加型研究)の考え方を理解し、地域の課題に対する簡単な改善提案を行うことができるようになる。
これらの経験を通じて、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割を具体的に理解し、地元への関心と愛着を深め、地域づくりに主体的に関わろうとする態度を形成する。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

本科目は、本学部の以下のディプロマ・ポリシーに関連する

7	保健医療福祉システムの中で、多職種連携を図り、看護の機能と看護職者の役割を理解し、調整機能を果たすための基礎的能力を身につける。
8	コミュニティーにおいて、医療職福祉職以外の人や機能と連携し、健康上の課題の解決に向けたネットワークが形成できるように看護職者の地域活動の機能を理解する。

・到達目標(SBO)

1. 地元で暮らす人々の生活の様子や困りごとを、見聞きした内容をもとに説明できる
2. 住民や支援者と関わる中で、相手の話を聴き、尊重しながら協力して学ぶ態度を示すことができる
3. CBPR(地域参加型研究)の基本を理解し、写真・インタビュー・話し合いを通して地域課題を整理し、簡単な改善のアイデアを挙げることができる
4. 地域での学びを通して、地元への愛着を深め、地域づくりに看護職として自分にできる関わり方を文章で表現できる

・授業日程

【講義】

月日 曜日 時限	授業内容/到達目標	担当教員
4/27 (月) 2限	<p>【授業内容】授業の目的と年間の活動内容を理解するとともに、CBPR(地域参加型研究)の基本的考え方—住民と専門職が対等なパートナーとして地域課題に取り組む姿勢とプロセス—を学ぶ その上で、2つの活動チーム(医療的ケア児/認知症チームオレンジ)の概要を知り、いずれか1つを選択する 【関連するSBO】1、2、4 【事前学修:90分】地元で気になることを考えてくる 1)あなたの住んでいる地域で、地域住民(高齢者・子ども・障害者など)が「困っていそうだな」と感じたことは何ですか？ 2)それに対して、何が(誰が)支えになれそうですか？(WebClassに提出:以下同じ) 【事後学修:90分】今日の授業の振り返り 1)選択した活動(医療的ケア児/認知症チームオレンジ) 2)印象に残ったこと 3)地域で活動することの楽しさ、面白さ 4)CBPRの考え方を踏まえて、授業で取り組んでみたい関わりや工夫</p>	<p>遠藤 太 教授 蛸崎 奈津子 教授 佐藤 奈美枝 教授 伊東 佐由美 講師 小坂 未来 講師 五日市 瑠美子 助教 赤井 純子 助教 畑中 るり子 助教</p>

	地域で暮らす医療的ケア児	認知症サポーター	
5・6月 予定	<p>【授業内容】矢巾町における医療的ケア児等の取り組みについて知る <外部講師：矢巾町福祉課> ・矢巾町の概要 ・矢巾町における医療的ケア児等への取り組み ・災害時の課題と矢巾町の取り組み 【関連するSBO】1、2、3、4 【事前学修：90分】自分の考えをまとめる ①「町役場(福祉課)」は、子どもや家族のためにどんな支援をしているのか ② 医療的ケア児の支援で、「家庭だけでは難しく感じる」と感じることは何か ③ 災害が起きたとき、「行政が準備しておくべきだ」と思うことは何か 【事後学修：90分】矢巾町の取り組みから学んだことをまとめる ①矢巾町が行っている医療的ケア児等への支援 ②災害時に特に重要だと感じた取り組み ③「行政が関わることの強み」だと思った点 ④看護職や学生が地域と協力ができそうなこと</p>	<p>【授業内容】認知症サポーター・ステップアップ講座を受講し、認知症について理解を深める <外部講師：矢巾町地域包括支援センター> ・認知症施策の変遷 ・チームオレンジの取り組み 【関連するSBO】1、2、3、4 【事前学修：90分】自分の考えをまとめる ① 身近にいる高齢者が困っていそうなこと ② 家族だけで支えるのは大変そうだと感じる場面 ③ 地域にどんな支援があったら助かると思うか 【事後学修：90分】認知症の人を地域で支えるしくみをまとめる ① 地域包括支援センターの役割 ② 認知症の人や家族が安心できる支援は ③ 授業で「知らなかった」「驚いた」こと</p>	<p>遠藤 太 教授 蛸崎 奈津子 教授 佐藤 奈美枝 教授 伊東 佐由美 講師 小坂 未来 講師 五日市 瑠美子 助教 赤井 純子 助教 畑中 るり子 助教</p>
6月 予定	<p>【授業内容】医療的ケア児について：ケア実際とコーディネーターの役割を知る <外部講師：みちのく療育園> ・ケアの実際 ・地域における医療的ケア児と多職種連携 【関連するSBO】1、2、3 【事前学修：90分】 ①医療的ケア児に関わる専門職を調べ、それぞれの役割についてまとめる ②医療的ケア児等コーディネーターの役割について調べまとめる 参考資料：岩手県ホームページ「医療的ケア児支援体制図」「医療的ケア時等コーディネーターに期待される役割」 【事後学修：90分】医療的ケア児を支える「ケアと連携」をまとめてみよう ・どのような医療的ケアが行われていたかと、ケアで特に大切だと感じたこと ・関わっている専門職・機関のそれぞれの役割と、夫々がどんな場面で連携しているか</p>	<p>【授業内容】矢巾町の現状を知り、認知症支援の施策と活動のつながりを考える ①矢巾町の認知症に関する施策を調べる ②矢巾町の認知症支援活動を調べる ③認知症支援活動の拠点や高齢者にやさしい店の位置・特徴等を記したマップ作成 【関連するSBO】1、2、3 【事前学修：90分】地域で認知症の人を支えるために、「安心して過ごせそうな場所」や「頼れそうな場」にはどんな特徴があるのかを考える(雰囲気・役割・工夫など) 【事後学修：90分】矢巾町の認知症支援を“マップ”から考えてみる ・マップを見て気づいた特徴は？ ・地元で支援の場があることの大切さは？</p>	<p>遠藤 太 教授 蛸崎 奈津子 教授 佐藤 奈美枝 教授 伊東 佐由美 講師 小坂 未来 講師 五日市 瑠美子 助教 赤井 純子 助教 畑中 るり子 助教</p>
7月 予定	<p>【授業内容】2.3回の講義から医療的ケア児の課題やニーズを検討する(グループワーク) ・日常生活において医療的ケアが必要な児と家族のニーズや課題 ・ニーズや課題をもとにした当事者家族へのインタビュー内容 【関連するSBO】1、2、3、4 【事前学修：90分】以下についてまとめる ・家族が毎日医療的ケアを行う生活になったと想像し、ケアをするあなたが「一番大変そうだと感じる場面や状況」はなにか ・その場面や状況で誰のどのような支援があれば安心できると思うか 【事後学修：90分】授業の内容を以下の視点でまとめる ・グループワークを通して分かった医療的ケア児と家族の現実的な困りごと ・地域の人や支援者と自分が一緒にできそうな小さな工夫や支援</p>	<p>【授業内容】認知症支援活動の経験を通して学びたい内容を検討する ・当事者・家族との交流を通して知りたいこと・学びたいこと ・認知症支援活動に参加している地域住民(チームオレンジ矢巾メンバー)、支援に携わっている専門職へのインタビューの内容 【関連するSBO】1、2、3、4 【事前学修：90分】以下についてまとめる ・身近な人が認知症となった時、あなたが「大変そうだと感じる場面や状況」を考えると、その場面や状況で誰のどんな支援があれば安心できると思うか 【事後学修：90分】授業の内容を以下の視点でまとめる ・当事者・家族との交流を通して特に知りたいこととその理由 ・専門職に聞いてみたいこととその理由 ・交流やふれあいを通して明らかにしたい地域の課題</p>	<p>遠藤 太 教授 蛸崎 奈津子 教授 佐藤 奈美枝 教授 伊東 佐由美 講師 小坂 未来 講師 五日市 瑠美子 助教 赤井 純子 助教 畑中 るり子 助教</p>

<p>8・9月 予定</p>	<p>【授業内容】当事者家族が抱える困難について調査する ・附属病院小児科外来(発達外来毎週水曜日)にて、当事者家族へインタビュー ・インタビューとあわせて、生活の中で困難が生じている場面や環境を(許可を得て)写真で記録し、日常生活での困りごとやニーズを見出す 【関連するSBO】1、2、3、4 【事前学修:90分】自分の考えを以下の視点でまとめる ・前回の授業で考えたインタビュー内容から、「特に大切だ」と思う問いと、その理由 ・インタビューで傾聴するために心掛けたいこと 【事後学修:90分】自分の考えを以下の視点でまとめる ・インタビューや写真から分かった当事者家族の一番大きな困りごと・ニーズ ・その困難が生まれている背景を自分なりに考えたこと</p>	<p>【授業内容】認知症支援活動へ参加①② ・当事者・家族との交流を図り、支援者へのインタビューを実施する ・交流の中で気づいた場面や工夫を(許可を得て)写真で記録し、生活上の課題や支えを整理する 【関連するSBO】1、2、3、4 【事前学修:180分】第4回で作成したインタビュー内容を以下の視点で見直す ・その問いは「生活のどの場面」を知ろうとしているか ・その問いは「誰の困りごと」を明らかにしようとしているか ・その問いから「どんな支援のヒント」を得たいのか 【事後学修:180分】自分の考えを以下の視点でまとめる ・交流やインタビュー、写真を通して分かった当事者・家族の生活の中で実際に起きている困りごと ・支援者が行っていた関わりで印象に残ったこと ・自分が第4回で想像していた内容と違っていた点</p>	<p>遠藤 太 教授 蛸崎 奈津子 教授 佐藤 奈美枝 教授 伊東 佐由美 講師 小坂 未来 講師 五日市 瑠美子 助教 赤井 純子 助教 畑中 るり子 助教</p>
<p>8・9月 予定</p>	<p>【授業内容】「盛岡となん支援学校」で実施される矢巾町防災訓練に参加する ・医療的ケア児の避難の実際について学ぶ ・避難経路や避難所環境の様子を(許可を得て)写真で記録しながら、避難所生活での課題やニーズを具体的に把握する 【関連するSBO】1、2、3、4 【事前学修:90分】医療的ケア児の災害時の避難について、以下の視点で自分の考えをまとめる ・移動のとき ・医療機器を使う場面 ・周囲の人の助けが必要になりそうな場面をイメージして、特に支援が必要なこととその理由 【事後学修:90分】自分の考えを以下の視点でまとめる ・防災訓練や写真から分かった避難時の困難 ・避難所生活で配慮や工夫が必要だと感じたこと ・地域の人が関わることで改善できそうだと感じた点</p>	<p>【授業内容】〈まとめ〉グループワーク ・当事者・家族との交流やインタビュー内容を整理し、活動を通しての学びをまとめる ・認知症支援に関する課題やニーズを見出し、学生にできることを検討する (CBPRの手法) 【関連するSBO】1、3、4 【事前学修:90分】これまでの授業や体験を振り返り、次の視点で自分の気づきを簡単にまとめる ・医療的ケア児や家族が「特に大変そうだ」と感じた場面 ・その場面で役立っていた支えや工夫 ・「まだ足りない」と感じた支え 【事後学修:90分】グループワークをもとに次の視点でまとめる ・矢巾町で医療的ケア児と家族が直面している主な課題 ・すでに地域で行われている良い支援 ・さらにあればよいと感じた支援のアイデア ・その支援に看護職がどう関われそうか</p>	<p>遠藤 太 教授 蛸崎 奈津子 教授 佐藤 奈美枝 教授 伊東 佐由美 講師 小坂 未来 講師 五日市 瑠美子 助教 赤井 純子 助教 畑中 るり子 助教</p>
<p>10月 予定</p>	<p>【授業内容】〈まとめ〉グループワーク ・矢巾町で生活している医療的ケア児と家族に対して必要と考える支援を模索し課題をまとめる(CBPRの手法) 【関連するSBO】1、3、4 【事前学修:90分】これまでの授業や体験を振り返り、次の視点で自分の気づきを簡単にまとめる ・医療的ケア児や家族が「特に大変そうだ」と感じた場面 ・その場面で役立っていた支えや工夫 ・「まだ足りない」と感じた支え 【事後学修:90分】グループワークをもとに次の視点でまとめる ・矢巾町で医療的ケア児と家族が直面している主な課題 ・すでに地域で行われている良い支援 ・さらにあればよいと感じた支援のアイデア ・その支援に看護職がどう関われそうか</p>	<p>【授業内容】〈まとめ〉グループワーク ・当事者・家族との交流やインタビュー内容を整理し、活動を通しての学びをまとめる ・認知症支援に関する課題やニーズを見出し、学生にできることを検討する (CBPRの手法) 【関連するSBO】1、3、4 【事前学修:90分】これまでの交流・インタビュー・写真やメモを振り返り、以下を簡単にまとめる ・印象に残った当事者や家族の困りごと ・「うまく支えられている」と感じた関わり ・「まだ足りない」と感じた支え 【事後学修:90分】グループワークとマップ整理をもとに次の視点でまとめる ・認知症のある人や家族が地域で困っている主なこと ・現在の支援で役立っている点 ・さらに必要だと感じた支援や工夫 ・学生として地域でできそうな関わり方</p>	<p>遠藤 太 教授 蛸崎 奈津子 教授 佐藤 奈美枝 教授 伊東 佐由美 講師 小坂 未来 講師 五日市 瑠美子 助教 赤井 純子 助教 畑中 るり子 助教</p>

11・12 月 予定	<p>【授業内容】<最終回・合同発表会> 矢巾町の住民・支援者を招き、医療的ケア児チーム・認知症チームそれぞれ フォトボイスを用いて活動の成果を発表し、地域の課題と支援のあり方を共有する ・活動を通して得た気づきを写真とともに発表する ・地域に必要な支援や工夫について意見交換を行う</p> <p>【関連するSBO】1、2、3、4</p> <p>【事前学修：5時間：300分】グループごとに以下を準備する ① 活動の中で「大切だ」と感じた場面を表す写真を2～3枚選ぶ ② それぞれの写真について「何が起きていたか」「なぜ大変だと感じたか、または良い支えだと感じたか」を短い言葉でまとめる ③ 写真を通して伝えたい「地域の課題」「あればよい支援や工夫」を整理する ④ 発表資料・powerpointを作成する ※難しい発表資料は作らず、「写真＋簡単な説明」を基本とする</p> <p>【事後学修：3時間：180分】授業全体のまとめを以下の視点で行う ① 活動全体を通して分かった地域の現実 ・医療的ケア児や認知症のある人・家族が生活の中で抱えている主な困難 ・実際に役立っている支えや工夫 ② 写真を通して特に強く印象に残った場面 ・なぜその場面が心に残ったのか ・そこから何を感じ、考えたか ③ 地元が必要だと感じた支援や改善の視点 ・「もっとあればよい」と思った支え 地元の人と一緒にできそうだと感じたこと ④ この授業を通して変わった自分の考え ・地元を見る目はどう変わったか ・看護職として地元に関わることをどう捉えるようになったか</p>	<p>遠藤 太 教授 蛸崎 奈津子 教授 佐藤 奈美枝 教授 伊東 佐由美 講師 小坂 未来 講師 五日市 瑠美子 助教 赤井 純子 助教 畑中 るり子 助教</p>
------------------	---	---

・教科書・参考書等

教：教科書

参：参考書

推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	地域保健に生かすCBPR コミュニティ参加型の活動・実践・パートナーシップ	CBPR研究会著	医師薬出版	2010
参	認知症サポーター養成講座標準教材	全国キャラバン・メイト連絡協議会	NPO法人 地域共生政策自治体連携機構	2023
参	いわて医療的ケア支援ガイドブック https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/fukushi/shougai/kokoro/1040979.html	岩手医科大学附属病院 【小児科・障がい児医療学講座】	岩手県	2024

・成績評価方法

<p>【総括的評価】100% ① フォトボイス発表およびグループ成果物(40%) ② 各活動後の振り返りシート・事後学修課題(40%) ③ 最終回のまとめレポート(20%)</p> <p>【形成的評価】 ・各回の事前・事後学修課題および振り返りシートを通して学修状況を確認し、適宜コメントを記載しフィードバックを行う ・グループワークや発表準備の過程で教員が助言を行い、学びの深化を支援する</p> <p>【まとめレポート評価】 ・点数及びコメントを付記したレポートを返却する</p>								
DP	SBO	小テスト	定期試験	課題	GW	実技	その他	合計
7	2、3			20	20			40
8	1、4			20	20		20	60
合計		0	0	40	40	0	20	100
<p><備考>その他20点は、最終まとめレポート点です</p>								

・特記事項・その他

<p>【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】 本授業は地域と連携して実施するため、矢巾町との打ち合わせや地域行事の状況に応じて、授業日程および内容の一部を調整する場合があります</p> <p>【実務家教員担当授業の有無、実務家教員の実務経験の内容及び授業との関連】 当該科目に関連する実務経験の有無 有</p> <p>行政職員、医療的ケア児支援に携わる医療・福祉専門職、認知症支援活動に関わる実務家が外部講師として参加し、現場での支援実践や地域連携の取り組みをもとに、医療的ケア児支援および認知症支援の実践について具体的な事例を交えて授業を行う。</p>
--

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
演習	プロジェクター(VPL-FWZ60)	1	講義用スライド投影